



令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野 (教科)

音楽

研究テーマ

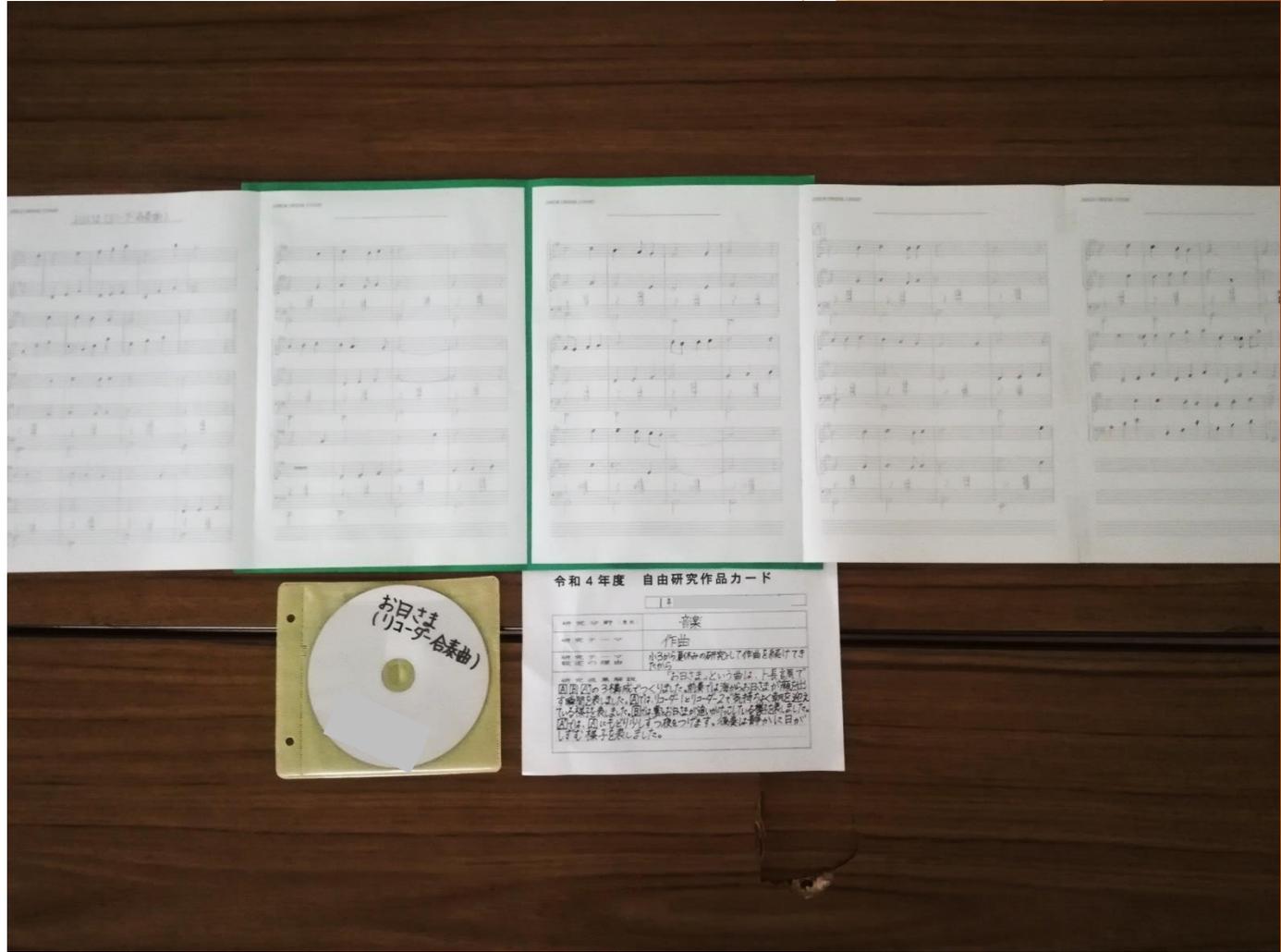
作曲

研究テーマ設定の理由

小3から夏休みの研究として作曲を続けてきたから

研究成果解説

「お日さま」という曲は、ト長調でA B Aの3構成でつくりました。前奏では海からお日さまが顔を出す瞬間を表しました。Aでは、リコーダー1とリコーダー2で気持ちよく朝を迎えている様子を表しました。Bでは、雲とお日さまが追いかけている様子を表しました。Aでは、Aにもどり少しずつ夜をつげます。後奏は静かに日がしずむ様子を表しました。



令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野 (教科)	音楽
研究テーマ	ホルン
研究テーマ設定の理由	吹奏楽部に入部してホルンを担当することになり、知りたいことが増え、調べてみようと思ったから。
研究成果解説	ホルンの始まりは動物の角であった。人々の伝達の手段として使われていたホルンの音色は人に好まれる音だと思ふ。また、ホルンの作られる工程を調べたことにより角笛(動物の角を使った楽器)などの昔のホルンとは違い、楽器として安定した音を出せるように進化したと思ふ。

夏休み自由研究

① テーマ

ホルン

② 設定理由

中学校で吹奏楽部に入部した。知っている楽器よりも知らない楽器の方が多く、私が担当しているホルンも形と名前しか知らなかった。しかし、担当する楽器がホルンになるとホルンについて知りたいことが増え、夏休みの自由研究で調べようと思った。

③ 調査方法

インターネット

④ 調査内容

○歴史

ホルンの始まりは動物の角

ホルンは、動物の角を使った「角笛」を祖先に持つ。16世紀まで主に狩猟時や戦争の時に仲間に出す合図として使われていた。日常生活や貴族の趣味に欠かせなかった楽器のようだ。

英語では楽器のホルンも動物の角も horn と書く。動物の角を使っているとどうしても壊れやすいためたまたま青銅器や金属などで代用していたが、中世になると金属のものが主流になった。こうして形は変わったものの人々に合図を出す、何かを知らせるという役割はそのまま保たれている。



アルプホルン

アルプスの谷の住民同士がコミュニケーションをとるために使われていた。

モーツァルトの父レオポルト・モーツァルトはアルプホルンのために作曲をしている。



令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野 (教科)	音楽
研究テーマ	ベートーヴェン ～ベートーヴェンの生涯と《運命》～
研究テーマ 設定の理由	コンクールの課題曲でベートーヴェンをひき、 もっとベートーヴェンについて知りたいと思ったから。
研究成果解説	今まで、ベートーヴェンが難聴になっ たことしか知りませんでした。今回調べてみて、「こんなこと もあったのか。」とたくさん知ることができました。 難聴の後につくった《運命》への思いを読み取ることが できたと思います。他の音楽家についてもくわしく調 べてみたいです。

① 設定理由

ピアノを習っていて、コンクールで課題曲がベートーヴェンだった。
そこで、もっとベートーヴェンについて知りたいと思った。

② 調査方法

- ・ベートーヴェン 交響曲 第5番 ハ短調作品67《運命》から 第1楽章
を鑑賞する
- ・本で調べる

③ 調査内容

【ベートーヴェンの生涯】 1770～1827年 (古典派時代、ロマン派時代に活躍)

1770年に生誕。祖父の時代から音楽家庭だったが、幼少時代は貧しかった。

↓

17歳でモーツァルトの活躍するウィーンへ！！

だが、二週間でドイツのボンに帰ることに…。

↓

1792年、21歳でハイドンの弟子となり再びウィーンへ旅立つ。

↓

【ベートーヴェンの《運命》について】

ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調 作品67《運命》から 第1楽章

1808年に完成した曲。難聴に悩み、自殺をも考えたベートーヴェンだったが遺書
を書きながら自問自答するうちに生きる気力を取り戻し、再びウィーンで作曲活動
に取り組み《運命》を作曲する。

【ベートーヴェンの《運命》を聞いて】

激しい感じ、力強い

「ジャジャジャーン」がなると、遅かったり速かったり、オーケストラのい
ろいろな楽器で表現しているところがすごい。

④ 考察

《運命》が難聴の後につくった曲だということをはじめて知った。

難聴になる前と後では曲がどのように変化しているのかも調べてみたいと思った。

令和4年度 自由研究作品カード

1年

研究分野 (教科)	音楽
研究テーマ	「絆」の分析
研究テーマ設定の理由	合唱コンクールが楽しめたから
研究成果解説	ネットで調べた歌詞の情報や、自分の思ったこと、友達への感想をまとめた。あらためて歌詞を読みなおしてみたときに感じることを書きだす。これはみんながクラスの後立っていいと思います。

絆

絆とは

私たち1年B組が9月の合唱コンクールで歌う曲のことで、

概要

- ・作詞・作曲：山崎朋子
 - ・合唱形式：3部(一部2部)
- 合唱曲『絆』は、中学校の教員である山崎朋子さんが作詞・作曲した中学校向けの合唱曲(混声三部合唱)です。
- 合唱コンクールの定番ソングでもあり、卒業ソングでもあります。になった合唱曲でもあります。
- 『絆』という題名から東日本大震災後に注目を集めました。
- ・調：ニ長調
 - ・拍子：4分の4拍子
 - ・テンポ：4分音符=80~88
- 調も拍子もテンポも歌いやすいくらいです。

歌詞を読んだ感想

卒業式によく歌われる曲ですが、「卒業」という言葉が一度も出てきていません。でも多くの歌詞が卒業を連想させる歌詞だと感じました。

友達に歌詞の感想を聞いてみたところ、

- ・感動する歌詞だと思った
 - ・仲間を大切にしようと思った
 - ・思い出がよみがえる感じがする
- と、友達や思い出を彷彿とさせる歌詞です。

歌うときに小学校の卒業式や友達と別れた時のことを考えると心がこもった歌になると思いました。

感想

今までも、音楽の授業でこのような曲の情景を調べてまとめることはやっていたが、今回より多くの情報でまとめることができとても満足です。

今回私が調べた絆のレポートが少しでも1年B組の役に立てばいいなと思いました。

令和4年度 自由研究作品カード

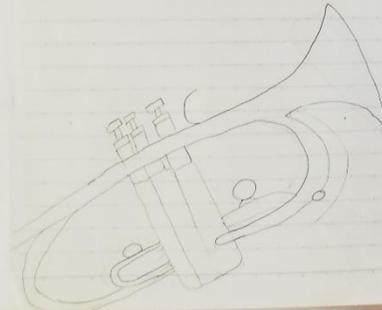
1年

研究分野 (教科)	音楽
研究テーマ	金管楽器について
研究テーマ設定の理由	吹奏楽部だから
研究成果解説	<p>音の音量でいつか見たり吹いたりして金管楽器について改めてよく知りました。楽器の歴史を知ることで、どの楽器がどんな曲に向いているのかが分かりました。金管楽器の他に木管楽器や打楽器があるのでもっと色々試してみたいです。</p>

トランペット

1839年にペリニが現代のトランペットに一番近いものをつくられたと言われています。しかし、まだ問題点も多かったため、ワグナーなどの人物はナチュラルトランペットと言っている少し旧型のトランペットを使っていました。トランペットにも種類があり、ピストントランペット(最も一般的)

- ロータリートランペット(オーケストラで使われる)
 - スライドトランペット(トロンボーンに似ている)
 - ナチュラルトランペット(最もシンプルな形)
- などがある。



トロンボーン

15世紀頃生まれた楽器で、形があまり変わっていない。中低音域を演奏できる。美しい人男生の声に近いと言われている。美しくハーモニーを変えられるため、神曲の楽器などと呼ばれている。交響楽に重用されていたトロンボーンにもいくつかの種類があり

- ソプラノトロンボーン
 - アルトトロンボーン
 - テナートロンボーン
 - バストロンボーン
- などがある。

